

◆ 争議團の態度

三二

緊張した一夜を高野山に立こもつて明した南海電車の同盟罷業團は宿舍の普賢院を争議團本部とし、門前には會旗數十を押し立て氣勢をあげたが、十四日朝になり宿所の一乘院をやめて普賢院、常寺院の他蓮華院、遍照光院、普門院の五寺に分宿し、團體的行動の秩序を維持するため、午前八時から各寺院でそれ／＼幹部が人員點呼を行つた結果總計五百六十名を算へたが、なほ登山中のものが、高野線の七十人を筆頭に、二十人三十人三次第に増加しているから夕刻までには千名を突破するはずである。(十五日大阪毎)

普賢院本部では午前八時半から幹部會を開き、罷業團組織編制を協議し、參謀長に柳原豊一同本部付伊藤由雄、宮崎龜吉、聯絡部香西慶三郎、宣傳部藤林幸一郎、人事部青木徳松、保安部福岡好美、會計部山下近一を各委員長にあげ、一方争議團に團長として雜賀清治及び二十名に一名づゝの班長を選び、それ／＼部署に付き至極平靜で早くも持久戰の覺悟で自炊をはじめ食料品の分配をはじめた、參謀長の柳原氏は語る

今度の罷業によつて沿線の住民諸君に迷惑をかけたのを遺憾に思つてゐる。大正十二年のストライキは會社側の政策的ストライキで會社側幹部自身が罷業團を煽動してストライキに参加せしめ、あゝで懐柔せんとする方策であつた、その後組合員はこの會社側の陋策を見破つて快してせず、さらに會社側がわれ／＼同志會幹部に會員の離間策として、幹部は會員の意志を代表せずその指導精神は誤つてゐるを宣傳し、一方會員に對して、誠意をもつて來れば會社は能ふる限り待遇の改善をはかるを言明し、組合の破壊をせんとしてゐるが、今度の罷業は幹部に會員の團結力を現したので、罷業の責任は全く會社にあると言はねばならぬ。(十五日大阪毎日)

罷業團本部では情報として左の揭示を普賢院の門前に貼り出した

◆參謀の統制は着々出來つゝある、四項目の要求貫徹の爲わが同志會を支持されんことを願ふ、現状はなほ混沌たる状態であるに聞く、われらの勝利は目前に迫りつゝありに信ず、◆南海當局はわれらが高野山上に來れることに對してあらゆる手段を講じて、下山策に苦心中であるわれらが主張せし所期の目的を達せん爲には、こゝ暫くの苦痛であるから靜かにしないとお寺に感じを悪くするといふことになりすから何卒此の點御諒承を願います、御宿を大切にすることもわれ等の罷業を全世界の模範ならしむるやう◆本部は時々移動しつゝあります、御不便ですがしんほうを願います、食ふことその他御満足と與へることに努力しつゝありますから御安心願います(十五日大阪毎日)

高野山上の罷業團參謀部は大阪市電監察員および警察當局から入りこんでおるため時々場所を變へ、現在は養谷山下旅館に陣取つてゐるが、十四日午後二時大要左の如き聲明書を發表した。

今回突如として罷業の舉に出で、沿道住民一般公衆に迷惑をかけたのは、交通勞働に従事するものゝ責任として誠に申譯のない限りである(三謝し)南海當局が同志會彈壓の方針に出で、何等豫告なくして、會長始